

## 哲学 I

担当教員 武田 一博

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

古来より哲学の根本問題とされるのは、「存在とは何か」という問題と、「われわれはどのように存在を認識するか（できるか）」という問題です。この講義では、そうした問題を現代科学と密接に連携した形で「脳と心（意識）」の関係を中心に考えていきたいと思えます。そして、その中で「外界の認識可能性」、「ことばと意味世界」、「自由と必然性」、「パラダイムと客観的真理」、「経験的世界と超越者」などの問題も考えてみたいと思えます。みなさんも現代哲学の森にぜひ足を踏み入れてみてください。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要、哲学とは何か
2	レポート作成について
3	現代哲学の基本的スキーム
4	存在とは何か
5	認識とは何か
6	脳のメカニズム
7	知覚のメカニズム
8	脳と心
9	心とことば
10	認識の相対性と客観性
11	科学的認識のパラダイム
12	自由とは何か
13	自由と必然性
14	超越的世界の認識可能性
15	受講者の感想とレポート提出
16	

## 【履修上の注意事項】

- (1)条件を守らないレポートは不可を付けます。レポートの条件は、2回目の講義時に行ないます。
- (2)私語・居眠りは教室の外で行なってもらいます。
- (3)積極的に質問してください。
- (4)問題を自分で考えようとする学生のみ、受講してください。

## 【評価方法】

レポートで基本的には成績を評価しますが、途中で課題を出すこともあります。課題はレポートの評価に上乘せします。

## 【テキスト】

テキストは指定しません。参考文献をたくさん読んでください。

## 【参考文献】

梅林・河野(編)『心と認識』昭和堂、チャーチランド『認知哲学』産業図書、ラマチャンドラン『脳のなかの幽霊』角川書店、コッホ『意識の探求(上下)』岩波書店、マクリーン『三つの脳の進化』工作舎

## 哲学Ⅱ

担当教員 武田 一博

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

この講義では、「人間の行為はある価値意識によって支えられ、生み出されているとすれば、その価値は何に由来するか」という問題を考えてみたいと思います。その際、できるだけ現実に即して具体的に問題を考えることにします。すなわち、現代の産業化社会における人間のあり方、とりわけ労働疎外、大衆社会、消費生活、自然との共生、男女の共生、情報化社会におけるコミュニケーションなどを問い直す形で考えたいと思います。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要、哲学とは何か
2	成績評価、受講上の注意
3	行為とは何か
4	価値とは何か
5	産業化社会のメカニズム
6	経済的価値の由来
7	産業労働とお金
8	労働疎外
9	物象化とフェティシズム
10	消費社会の便利さと豊かさ
11	自然の価値を考える
12	共生社会とは
13	「持つ様式」と「する様式」
14	ほんとうの生きがいとは何か
15	受講生の感想・評価とレポート提出
16	

## 【履修上の注意事項】

- (1) 哲学Ⅰを履修していない人でも受講できます。
- (2) 私語・居眠りは、教室の外に出てもらいます。
- (3) 質問を積極的に行なってください。
- (4) 問題を自分の頭で考えること。
- (5) たくさん本を読むこと。

## 【評価方法】

レポートの内容で基本的には成績評価します。途中で課題を出すこともあります。課題の評価は、レポートの評価に上乘せします。

## 【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店、1998年

## 【参考文献】

フロム『生きるということ』『人間における自由』、マルクス『経済学・哲学草稿』、森岡孝治『働きすぎの時代』岩波新書、河邑厚徳『エンデの遺言』NHK出版、イリイチ『シャドウ・ワーク』岩波現代文庫

## 歴史学 I

担当教員 吉浜 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

沖縄近現代史を教材に、歴史の見方・考え方、歴史を学ぶ意義や歴史の面白さ・楽しさに触れさせ、歴史認識を確かなものにする。教材はできるだけ身近な歴史事象を取り入れ、資(史)料・図版・写真などを豊富に使ったビジュアルなプリントを作成し、使用することで歴史に興味・関心を持たせる。さらに、それぞれのテーマ講義の歴史的な意味、重要な歴史用語などを理解させる

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歴史への誘い
2	歴史地図の見方
3	地名の歴史
4	ペリーと琉球
5	謝花昇の時代
6	日露戦争と徴兵
7	皇民化教育①
8	皇民化教育②
9	移民と出稼ぎの背景
10	近代の交通
11	映像に見る近代の沖縄
12	沖縄戦前夜①
13	沖縄戦前夜②
14	沖縄戦前夜③
15	まとめ
	16 テスト
16	

## 【履修上の注意事項】

- ①講義で配布するプリントがテキストになり、またテスト問題になるので、欠席しないこと。  
 ②登録上限数を上回った場合は、学科・学年を問わず抽選する。

## 【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点  
 ②課題レポート 10点  
 ③テスト 70点 (テスト問題は基本的事項や重要用語の記述式と歴史認識の小論文を併用)  
 ①+②+③=100点満点で評価する

## 【テキスト】

講義は毎回、テキストとしてプリント(一回の講義で3~5枚)を配布する。

## 【参考文献】

テキストに表記、また講義のなかで適宜紹介する。

## 歴史学Ⅱ

担当教員 吉浜 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

沖縄近現代史を教材に、歴史の見方・考え方、歴史を学ぶ意義や歴史の面白さ・楽しさに触れさせ、歴史認識を確かなものにする。教材はできるだけ身近な歴史事象を取り入れ、資(史)料・図版・写真などを豊富に使ったビジュアルなプリント作成し、使用することで歴史に興味・関心を持たせる。さらに、それぞれの講義テーマの歴史的な意味、重要用語などを理解させる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歴史への誘い
2	沖縄戦①
3	沖縄戦②
4	沖縄戦③
5	沖縄戦④
6	沖縄戦⑤
7	沖縄戦⑥
8	沖縄の戦後①
9	沖縄の戦後②
10	沖縄の戦後③
11	映像で見る戦後の沖縄
12	沖縄の戦後④
13	沖縄の戦後⑤
14	沖縄の戦後⑥
15	まとめ 16 テスト
16	

## 【履修上の注意事項】

- ①講義で配布するプリントがテキストになるので、欠席しないこと。
- ②登録上限数を上回った場合は、学科・学年を問わず抽選する。

## 【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点
  - ②課題レポート 10点
  - ③テスト点 70点 (テスト問題は基本的事項や重要用語の記述式と歴史認識の小論文を併用)
- ①+②+③=100点満点で評価する。

## 【テキスト】

講義は毎回、テキストとしてプリント(一回の講義で3~5枚)を配布する。

## 【参考文献】

テキストに表記、講義のなかでも適宜紹介する。

## 歴史学Ⅲ

担当教員 藤波 潔

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

本講義は、香辛料と茶という身近なものを話題とした近代ヨーロッパ史の講義である。しかし、近代のヨーロッパは、アジア・アフリカ・アメリカといった他地域との関係を通じて発展しているため、本講義では「近代ヨーロッパ」の発展の経緯を、非ヨーロッパ地域との関係をふまえて説明する。したがって、本講義では他地域との関係を通じた近代ヨーロッパ史の理解が最終目的となるが、歴史学は「暗記もの」ではなく「考える学問」なので、ワークシートの作成し、「歴史的なものの考え方」を修得することも目標とする。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	香辛料のはじまりと地中海商人①
3	香辛料のはじまりと地中海商人②
4	「大航海時代」の到来とイベリア諸国①
5	「大航海時代」の到来とイベリア諸国②
6	スペインからオランダへ①
7	スペインからオランダへ②
8	スペインからオランダへ③
9	オランダとイングランドの対立①
10	オランダとイングランドの対立②
11	オランダとイングランドの対立③
12	「茶」を通してみるオランダ・イングランド①
13	「茶」を通してみるオランダ・イングランド②
14	イングランドにおける「茶」文化①
15	イングランドにおける「茶」文化② ※ 16回目に前学期末試験を実施する
16	

### 【履修上の注意事項】

- ① 本講義を履修するための前提条件はない（歴史学Ⅰ・Ⅱを未履修でも本講義を受講できる）。
- ② 出席は毎回必ずとる。 ③ 評価とは関係なく、毎時間ワークシートの作成を実施する。
- ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。

### 【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

### 【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

## 歴史学Ⅳ

担当教員 藤波 潔

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

本講義では、コーヒーを題材として、17～18世紀のヨーロッパ史、とくに近代思想の発展とイギリス、フランスの国内政治史との関係について理解することを目的とする。しかしこの場合、コーヒーの発祥地・イスラーム世界の理解が不可欠となる。そこで、イスラーム世界でコーヒーの果たした役割について説明した後、イギリス、フランス両国におけるコーヒーと近代思想、国内政治との関係を講義する。また、歴史学は「暗記もの」ではなく「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じて「歴史的に考える」ことの育成も目的とする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「コーヒー」の誕生
3	イスラーム世界におけるコーヒー①
4	イスラーム世界におけるコーヒー②
5	イスラーム世界におけるコーヒー③
6	17世紀イギリスの思想と政治①
7	17世紀イギリスの思想と政治②
8	17世紀イギリスの思想と政治③
9	17世紀イギリスの思想と政治④
10	フランスへのコーヒーの流入と宮廷文化①
11	フランスへのコーヒーの流入と宮廷文化②
12	フランスの都市化と啓蒙思想、カフェ①
13	フランスの都市化と啓蒙思想、カフェ②
14	フランスの都市化と啓蒙思想、カフェ③
15	コーヒーと革命 ※ 16回目に後学期末試験を実施する
16	

## 【履修上の注意事項】

- ① 本講義を履修するための前提条件はない（歴史学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを未履修でも本講義を受講できる）。
- ② 出席は毎回必ずとる。 ③ 評価とは関係なく、毎時間ワークシートの作成を実施する。
- ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。

## 【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

## 【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

## 【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

## 心理学 I

担当教員 渡嘉敷 あゆみ

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 心理学 I

担当教員 与那嶺 敦

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

人は、人とのかかわりの中で生きている。そこでは心と心が作用し合っている。心は、直接は目に見えないものの、人の「行動」に表れるとされる。その表れたものをひも解くのが心理学の一側面であろう。本科目では、心理学という学問に触れるだけでなく、簡単なワーク（演習）を取り入れることにより、自分自身や人をよりよく理解する一助としたい。テーマとしては、知覚、学習、記憶、認知、コミュニケーションなどを中心に上げる予定である。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	心とは 心理学とは
3	脳のなりたち
4	人は環境をどのようにとらえるか① 知覚
5	人は環境をどのようにとらえるか② 知覚
6	経験のはたらき① 学習
7	経験のはたらき② 学習
8	経験のはたらき③ 記憶
9	経験のはたらき④ 記憶
10	人間の空間行動① 空間認知
11	人間の空間行動② 空間行動
12	思考
13	感情
14	人間のコミュニケーション行動
15	情報と人間行動
16	

## 【履修上の注意事項】

- ・心理学IIを未履修であっても受講可能です。
- ・希望者が多い場合は、4年次から優先して抽選する予定です。
- ・授業への積極的な参加を求めます。
- ・前項の展開計画は、適宜変更する可能性があります。

## 【評価方法】

課題、テスト、出席状況等を総合的に評価します。

## 【テキスト】

『生活にいかす心理学Ver. 2』古城和子【編著】ナカニシヤ出版 2002

## 【参考文献】

適宜紹介します



## 心理学Ⅱ

担当教員 渡嘉敷 あゆみ

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

- ①心理学の領域の中から人間関係と関連するパーソナリティ心理学・社会心理学・発達心理学・臨床心理学から主要な研究、方法、理論を紹介する。
- ②人間の行動や心理に関連する事象について、多面的に捉える必要性を認識し実践する態度、技能を育成することを目的とする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	パーソナリティ1：パーソナリティの捉え方、パーソナリティテスト
3	パーソナリティ2：血液型性格判断、パーソナリティ理論
4	社会的認知：対人認知・対人魅力と文脈効果
5	社会的行動1：社会的影響、同調
6	社会的行動2：対人コミュニケーション、対人行動
7	社会的行動3：女らしさと男らしさ
8	発達1：発達とは、発達心理学の変遷
9	発達2：乳児・幼児・児童期の特徴、ピアジェの発達理論。
10	発達3：青年期の特徴、エリクソンの発達理論
11	発達4：成人期・老年期の特徴
12	臨床1：臨床心理学とは、不応
13	臨床2：心理療法概論
14	臨床3：心理療法各論
15	期末試験
16	

## 【履修上の注意事項】

- ・教科書必携
- ・希望者が多い場合は、4年次から優先して抽選する予定である。

## 【評価方法】

期末テストを70点配分で行い、出席30点配分と合算して評価を行う。

評価＝出席（30点）＋期末テスト（70点）

出席は授業開始時に出席カードを配布する。

その日の授業内容にちなんだ課題を記入してもらい、授業終了時に提出してもらう。

テストは客観式テストを行う。

## 【テキスト】

石田潤ほか ダイアグラム心理学 北大路書房

## 【参考文献】

重野純 キーワードコレクション心理学 新曜社 / 菊池聡・木下孝司 不思議現象こどもの心と教育 北大路書房 / その他、講義中に適宜紹介する

## 心理学Ⅱ

担当教員 與那嶺 敦

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

人は、人とのかかわりの中で生きている。そこでは心と心が作用し合っている。心は、直接は目に見えないものの、人の「行動」に表れるとされる。その表れたものをひも解くのが心理学の一側面であろう。本科目では、心理学という学問に触れるだけでなく、簡単なワーク（演習）を取り入れることにより、自分自身や人をよりよく理解する一助としたい。テーマとしては、パーソナリティ、発達、臨床、社会などを中心に上げる予定である。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	心とは 心理学とは
3	自分らしさのなりたち① パーソナリティ
4	自分らしさのなりたち② 心理テスト
5	自分らしさのなりたち③ 発達理論
6	心の揺らぎと痛み① 健やかな心とは
7	心の揺らぎと痛み② 心が揺れるとき
8	心の揺らぎと痛み③ 心の危機
9	心の揺らぎと痛み④ 心の健康のために
10	人とのかかわり① 対人認知
11	人とのかかわり② 対人魅力
12	人とのかかわり③ 対人行動
13	集団のなかでの私① 集団の特徴
14	集団のなかでの私② 文化とジェンダー
15	集団のなかでの私③ まとめ
16	

## 【履修上の注意事項】

- ・心理学Iを未履修であっても受講可能です。
- ・希望者が多い場合は、4年次から優先して抽選する予定です。
- ・授業への積極的な参加を求めます。
- ・前項の展開計画は、適宜変更する可能性があります。

## 【評価方法】

課題、テスト、出席状況等を総合的に評価します。

## 【テキスト】

『生活にいかす心理学Ver. 2』 古城和子【編著】ナカニシヤ出版 2002

## 【参考文献】

適宜紹介します。

## コミュニケーション論

担当教員 伊礼 武志

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

## 【授業のねらい】

人間のすべての社会関係はコミュニケーションによって成立し、人間関係の良否はすべてコミュニケーションの善し悪しに依存するのである。本講義においては初めに、人間社会におけるコミュニケーションの役割と重要性について説き、次に、その性質と機能について述べ、最後にコミュニケーション・メディアとしての言語シボルと非言語シボルについて、その文化的背景や構造および特徴などについて学ぶ。なお、コミュニケーションはそのレベルに基づいてさまざまに類型化されるが、本講義においては特に、インターパーソナル・コミュニケーションに焦点を当てて学習する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	インターパーソナル・コミュニケーションの概念
2	人間のコミュニケーション
3	シンボリック相互作用論
4	コミュニケーションの類型
5	インターパーソナル・コミュニケーションのモデル
6	インターパーソナル・コミュニケーションの効果
7	インターパーソナル・コミュニケーションの効果の規定要因
8	効果的なインターパーソナル・コミュニケーションのための包括的な指針
9	インターパーソナル・コミュニケーションにおける知覚の問題
10	自己概念の形成
11	インターパーソナル・コミュニケーションにおける自己知覚
12	インターパーソナル・コミュニケーションにおける自己開示
13	言語コミュニケーション
14	非言語コミュニケーション
15	効果的なインターパーソナル・コミュニケーションの展開
16	

## 【履修上の注意事項】

双方通行的な授業（two-way communication）を行うので、学習意欲のある受講生を求む。

## 【評価方法】

授業への出席状況（70%）、授業への参加姿勢（20%）、レポート（10%）とし評価する。

## 【テキスト】

伊礼武志 著「インターパーソナル・コミュニケーション論」（サン印刷）

## 【参考文献】

D.K. バーロ 著、布留武朗、阿久津善弘 訳「コミュニケーション・プロセス」（共同出版）  
伊礼武志 著「組織コミュニケーション論」（サン印刷）

## 女性と文化

担当教員 栗国 恭子

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

文化を通して女性のあり方を考える。文化的性差である「ジェンダー」はどのように文化の中にあるのか。女性史研究、文化人類学の視点から男の文化・女の文化を考える。

### 【授業の展開計画】

- 1週目 ジェンダーとは何か 文化的性差の概念
- 2週目 女性研究学説史① 女性の文化研究
- 3週目 女性研究学説史② フェミニズム人類学とそのテーマ
- 4週目 沖縄の女性研究
- 5週目 女性と婚姻 婚姻システム
- 6週目 婚姻システム②—問われる産む性—
- 7週目 生む性～母性・子供の発見～
- 7週目 ケガレ・聖観 管理される身体
- 8週目 文化に管理される身体①「神と呼ばれた少女」ネパール・クマリ信仰
- 9週目 文化に管理される身体② ケガレなき神女 身体加工の問題
- 10週目 沖縄の女性—婚姻・離婚
- 11週目 沖縄の風俗改良
- 12週目 沖縄文化と女性—労働—
- 13週目 沖縄文化と女性—工芸—
- 14週目 沖縄文化と女性—民俗・信仰—
- 15週目 テスト レポート

### 【履修上の注意事項】

特になし

### 【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

### 【テキスト】

指定テキスト特になし 講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用する。

### 【参考文献】

重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

## フェミニズム思想

担当教員 武田 一博

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

わが国でも1999年に「男女共同参画社会基本法」が制定されて以降、男女平等の実現がようやく本格的に取り組み始めましたが、残念ながら現実には、いまだに女性差別や抑圧がまだまだ横行しています。この講義では、その問題を思想の問題として、フェミニズムがどのように捉えてきたかを、歴史をひもときながら考えていきます。受講生のみなさんは、少しでも多くの本を読んで、自分の頭で考える習慣を身につけてください。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要、受講上の注意
2	試験・成績評価について
3	フェミニズムとは
4	フェミニズムの諸潮流
5	ウルストンクラフト『女性の権利の擁護』
6	J・S・ミル『女性の隷属』
7	エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』
8	E・ケイ『恋愛と結婚』
9	ポーポワール『第二の性』
10	ファイヤストーン『性の弁証法』
11	イリイチ『シャドウ・ワーク』『ジェンダー』
12	M・ミース『世界システムと女性』
13	日本のフェミニズム
14	現代とフェミニズム
15	受講者の感想・評価とレポート提出
16	

## 【履修上の注意事項】

- (1) 私語・居眠りは教室の外に出てもらいます。
- (2) 質問を積極的に行なってください。
- (3) 問題を自分の頭で考えようとする人を希望します。
- (4) 女子学生だけでなく、男子学生も積極的に受講してください。

## 【評価方法】

基本的にレポートで評価します。レポート以外に、課題を出すこともあります。課題提出者はレポートに上乘せして評価します。

## 【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店、1998年

## 【参考文献】

大越愛子『フェミニズム入門』ちくま新書1996、江原・金井『フェミニズム』新曜社1997、江原・金井(編)『フェミニズムの名著50』平凡社2002、ダイヤモンド・オレンスタイン『世界を織りなおす』学芸書林1994

## 女性と歴史 I

担当教員 宮城 晴美

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

私たちは中学校・高校で世界史や日本史を学んできましたが、沖縄の歴史について教わる機会は非常に少なかったと思います。ましてや、女性の歴史を学ぶことはほとんどなかったのではないのでしょうか。

この授業は、明治の琉球処分から沖縄戦に至るまでの沖縄近代史をベースに、時代によって女性たちの“主体性”がどう変化してきたか（変化させられたか）について、現在の私たちの身近に起こる「人権問題」を含め、ジェンダーの視点で考察します。

### 【授業の展開計画】

新資料の入手などで、テーマが変わることもあります。

- 1 イン트로ダクション
- 2 琉球王国から沖縄県へ  
——近代沖縄ジェンダー史のアウトライン
- 3 女子教育と「同化」への助走  
——風俗改良運動——
- 4 女性の“自治組織にみる主体性”  
——御内原と辻遊廓——
- 5 沖縄・明治女の群像
- 6 「銃後」の女への総動員—純潔思想にみる「同化」政策の総仕上げ—
- 7 女たちの戦争参加①  
女子青年団、婦人団体の結成
- 8 女たちの戦争参加②  
戦時体制下の婦人会
- 9 沖縄戦の基礎的学習—ビデオ鑑賞
- 10 「集団自決」をジェンダーの視点で見る
- 11 日本人のみた沖縄女性観と元日本兵による証言
- 12 軍隊の構造的暴力と性犯罪
- 13 立ち上がった女性たち
- 14 「トートナー」(位牌)継承の歴史と沖縄の慣習
- 15 小論提出

### 【履修上の注意事項】

できるだけパワーポイントやビデオなど、適宜ビジュアルな資料を使って授業を進めるようにするが、話の途中でわからない(わかりにくい)ことがあれば、積極的に質問して内容を理解してほしい。

### 【評価方法】

出席を重視する。授業終了後のリアクションペーパーの提出、小論などによって加点方式で評価する。

### 【テキスト】

毎回、レジュメ、資料を配付する。

### 【参考文献】

上野千鶴子『差異の政治学』（岩波書店、2002年）、江原由美子「ジェンダーと社会理論」（『岩波講座 現代社会学 第11巻 ジェンダーの社会学』岩波書店、1995年）/他

## 女性と歴史Ⅱ

担当教員 新木 順子

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

本講義は西洋の歴史のなかで女性達がどういう状況におかれ、どう生きたか、なぜそうであったのかについて、社会的文化的背景をも含めて見ていこう。女性たちの歩みは苦闘に満ちたものであり、その結実を現代の私達は様々に享受している。各国女性の生きた足跡を概略する事で、今日の男女を取り巻く諸問題や西洋との違いと共通点などを、改めて問いかける契機になればと思う。

### 【授業の展開計画】

- ・講義の概略について
- ・古代ギリシャの女性の地位、持参金付結婚
- ・キリスト教の女性像ー女性の祖エバ、イエスの母マリア、娼婦？マгдаラのマリア
- ・中世ー貴婦人と恋愛、聖女、魔女と魔女狩り
- ・産業革命とイギリス女性労働者、ヴィクトリア時代の女子教育
- ・フランス革命と女性の権利宣言
- ・ナチズム政権と「民族の母」
- ・アメリカフェミニズムの興隆
- ・国際社会の動き、女子差別撤廃条約の採択（0979年）
- ・先進国北欧にみる女性政策
- ・テストの実施あるいはレポートの説明

（注）講義の進み具合によっては、時間配分や内容などに関して若干の変更がありますのでご了承ください。

### 【履修上の注意事項】

私語は厳禁です。

### 【評価方法】

出席は加味します。

### 【テキスト】

レジメを配布します。

### 【参考文献】

講義の際に紹介します。

## エコロジーの思想

担当教員 武田 一博

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

本講義では、さまざまなタイプのエコロジー思想を概括することを通じて、生産・消費・運輸交通・廃棄などの人間活動が現在どのような問題に直面させられているか、どのように方向転換すればよいのか、などを考えていくことにしたい。そして、そうした問題を「思想の問題」として考えることは、受講生それぞれの自分の問題として考えること、「生き方」を問い直すことである。当然ながら、その解答は多様であり、一つではない。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介、エコロジーとは何か
2	成績評価について、問題を自分の問題とすることについて
3	エコロジー思想の諸タイプ
4	シャロウ・エコロジーとディープ・エコロジー
5	エコロジーは技術によって実現可能か
6	ソフト・エネルギー論
7	伝統的社会や宗教の価値観を問い直す
8	「便利」で「快適」な生活は、われわれに何をもたらすのか
9	産業化社会の何が問題か
10	エコ・マネーは未来を救うか
11	エコロジカルな生き方とは何か
12	情報化社会の問題
13	スピード化社会、自動車社会の問題
14	まとめ：人類の未来と持続可能性
15	受講者の感想・評価とレポート提出
16	

### 【履修上の注意事項】

私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。

### 【評価方法】

基本的にはレポートによって成績を評価する。途中で課題を出すこともする。課題の評価は、レポート評価に上乗せする。出席点は、成績に考慮しない。

### 【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店1998年  
尾関・亀山・武田『環境思想キーワード』青木書店2005年

### 【参考文献】



## 倫理学 I

担当教員 小柳 正弘

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この講義では方法としては講義担当者が通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで倫理や人間のありかたがどのように問題となりうるのかを「ともに考える」ことをめざす。内容としては倫理の前提となる自由の問題を現代における自己決定の現状と課題の検討を中心に考察する。

### 【授業の展開計画】

テキストの第1部と第2部の内容をテーマに、「ともに考える」という事を授業の中核にすえる。具体的には①毎回その回の授業に関わる小レポートを授業中に書いてもらい②何人かの学生にはそれに基づく発言を求め③講義担当者も交えて質疑応答を行う。小レポートは各自B5Eの紙製フラットファイルにとじる。発言や質疑応答も発言記録票にその内容を発言者が記載の上このファイルにとじる（講義担当者が押印）。フラットファイルは毎時間回収・配布（これで出欠を確認）。小レポートは授業の素材として用いる。

1. オリエンテーション
2. 哲学とはなにか
3. 倫理と道徳
4. 自由論の視座
5. 自由のパラドックス
6. 倫理と自由
7. 理念としての自己決定権
8. 自己決定の現実
9. 自己決定権批判
10. 自己決定にかかわる諸問題
11. 「私」の自己決定と「私たち」の自己決定
12. 「私-たち」の自由
13. エスニシティとアイデンティティ
14. 社会的自我論の地平
15. まとめのレポート。
16. テキストの重要概念に関するテストをおこなう。

### 【履修上の注意事項】

この授業は「倫理学概論」や「倫理学Ⅱ」と同じテキストを用いるが、こちらはテキストの第1部と第2部の一部を主たる素材とする（テキストの全体は扱えない）。B5Eの紙製フラットファイルを学内の売店で購入して必ず準備する（成績評価の基本となるので用意しなければ受講できない）。私語は厳禁（挙手して公に発言せよ）。質問は原則、授業中に行うこと（問題を共有してともに考えることに貢献せよ）。テキストを必ず用意すること（テキストなしでは理解できない）。

### 【評価方法】

授業中に行うまとめのレポート（持ち込み不可）、20点  
テキストの重要概念に関するテスト（持ち込み可）、20点  
小レポートと発言記録票の量的な評価、60点

### 【テキスト】

小柳正弘『自己決定の倫理と「私-たち」の自由』（ナカニシヤ出版）  
（「倫理学概論」と同じテキスト）

### 【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

## 倫理学Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

## 【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この講義では方法としては講義担当者が通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで倫理や人間のありかたがどのように問題となりうるのかを「ともに考える」ことをめざす。内容としては、自己決定の現状と課題を踏まえて、倫理の前提となる自由が、現代においてどのようなものであるべきかを考察する。

## 【授業の展開計画】

テキストの第1部と第2部の一部および第3部全体の内容をテーマに、「ともに考える」という事を授業の中核にする。具体的には①毎回その回の授業に関わる小レポートを授業中に書いてもらい②何人かの学生にはそれに基づく発言を求め③講義担当者も交えて質疑応答を行う。出欠は小レポートで確認。発言や質疑応答は発言記録票にその内容を発言者が記載のうえ提出。小レポートは授業の素材として公開して用いる。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	自己決定の現状と課題
3	社会的自我論の地平
4	「私-たち」の自己決定
5	私のことを決定することをめぐって（1）パターンリズム v s 自己決定
6	私のことを決定することをめぐって（2）自己決定を支えるパターンリズム
7	私のことを決定することをめぐって（3）障害と自立
8	私が決定することをめぐって（1）モデルとしての技術者
9	私が決定することをめぐって（2）利害のトレード・オフとステイク・ホルダー
10	私が決定することをめぐって（3）自己決定の「標準」
11	現代日本の自由論
12	「共鳴」の事実
13	「共鳴」の原理
14	「共鳴」の倫理と「私-たち」の自由
15	まとめのレポート。16回目にテキストの重要概念に関するテストをおこなう。
16	

## 【履修上の注意事項】

この授業は通年「倫理学概論」や前期の「倫理学Ⅰ」と同じテキストを用いるが、こちらはテキストの第3部を主たる素材とし、第1部と第2部についてはごく一部しか扱えない（テキストの全体は扱えない）。私語は厳禁（挙手して公に発言せよ）。質問は原則、授業中に行うこと（問題を共有してともに考えることに貢献せよ）。テキストを必ず用意すること（テキストなしでは理解できない）。

## 【評価方法】

授業中に行うまとめのレポート（持ち込み不可）=20点、  
 テキストの重要概念に関するテスト（持ち込み可）=40点、  
 小レポートと発言記録票の量的な評価=40点。

## 【テキスト】

小柳正弘『自己決定の倫理と「私-たち」の自由』（ナカニシヤ）=前期の倫理学Ⅰ、通年の倫理学概論と同じ

## 【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

## 文学 I

担当教員 漆谷 克秀

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 文学Ⅱ

担当教員 漆谷 克秀

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 平和と文化

担当教員 吉川 由紀

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

沖縄には、近現代の複雑な歴史ゆえに、戦争や平和・人権を知るための様々な要素が秘められている。この要素を、継承し、現代の暮らしに生かそうと取り組んでいる現場の具体的な事例に学び、平和に生きることへの理解を深める。そうして得たものから、自ら「平和」を発信する方法を模索する。

### 【授業の展開計画】

毎回、講義とともに映像・画像の視聴を行う。各テーマの最終回に現場で活動している人の報告や体験者の証言を聴く機会を設ける。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 「平和ガイド」とは① 発祥と歴史
- 第2週 「平和ガイド」とは② 平和学習の諸相
- 第3週 「平和ガイド」とは③ 現場の声を聞く
- 第4週 沖縄の戦争遺跡① 沖縄に残る戦争の爪跡
- 第5週 沖縄の戦争遺跡② 戦争遺跡が持つメッセージ
- 第6週 沖縄の戦争遺跡③ 現場の声を聞く
- 第7週 対馬丸撃沈事件① 事件の概要
- 第8週 対馬丸撃沈事件② 現代に何を伝えるか
- 第9週 対馬丸撃沈事件③ 体験者の証言を聞く
- 第10週 対馬丸撃沈事件④ 遺族の証言を聞く
- 第11週 ハンセン病問題① ハンセン病隔離政策とはなにか
- 第12週 ハンセン病問題② 戦争とハンセン病
- 第13週 ハンセン病問題③ 回復者の証言を聞く(1)
- 第14週 ハンセン病問題④ 回復者の証言を聞く(2)
- 第15週 平和に生きるとは—想像力を目覚めさせる
- 第16週 まとめ

### 【履修上の注意事項】

県内外・国内外を問わず戦争・平和・人権問題を扱った資料館・博物館を積極的に見学し、書物（証言集なども含む）に目を通すこと。

### 【評価方法】

- ① 出席状況と期末課題作品などを総合して行う。
- ② 課題作品は、平和を発信する作品の創作とその方法を自由に考案し、期末に論文・レポートにまとめて提出する。

### 【テキスト】

特に指定はしない。毎回、レジュメを配布する。視覚教材のビデオを用いて授業をすすめる。

### 【参考文献】

『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地博編、法律文化社、2005年  
 その他は、講義の中でその都度紹介する。

## 芸術学 I

担当教員 浦本 寛史

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

美術や芸術がどのように始まり、我々人間社会にどのような影響を与えて来たのかを西洋美術史（作品名、作家名、時代・様式、主義・主張など）を紐解きながら学ぶことができる。また、本科目ではフィールド学習を通して美術館運営や学芸員の役割なども習得することができる。講義の到達目標は次のようになる。

1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することができる
2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することができる

### 【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することができる
2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することができる
3. フィールド学習を通して、美術館や学芸員の役割について説明することができる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト）
- 2週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 3週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 4週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 5週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 6週目 中世美術から近代美術への影響
- 7週目 フィールド学習（平和記念資料館）
- 8週目 著作権・肖像権とは
- 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック）
- 10週目 世界の美術館紹介
- 11週目 世界の美術館紹介
- 12週目 フィールド学習（県立博物館・美術館）
- 13週目 芸術と科学の融合
- 14週目 芸術と情報文化
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

### 【テキスト】

レジメ、資料を配布する

### 【参考文献】

1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

## 芸術学Ⅱ

担当教員 浦本 寛史

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

芸術学Ⅱでは、芸術学Ⅰで習得した知識を踏まえ、日本と沖縄の芸術文化をさらに思弁的に学び、社会における芸術（美術、音楽、演劇、写真）メディアを幅広く学ぶことができる。また、習得した知識や経験からユニークな企画書を作成し、博物館や美術館へ提出することができる。講義の到達目標は次のようになる。

### 【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 近代史において日本美術史や沖縄美術史の特徴を説明することができる
2. 美術史を踏まえ、幅広く芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の特徴を説明することができる
3. フィールド学習を通して、博物館や美術館の展示を企画することができる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト）
- 2週目 近代美術と週本美術史
- 3週目 近代美術と週本美術史
- 4週目 週本美術史と沖縄美術史
- 5週目 週本美術史と沖縄美術史
- 6週目 現代美術とメディア芸術の融合
- 7週目 現代美術とメディア芸術の融合
- 8週目 特別講義（博物館/美術館学芸員）
- 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック）
- 10週目 企画書作成の基礎
- 11週目 展示会企画書作成
- 12週目 展示会企画書作成
- 13週目 展示会企画書作成
- 14週目 展示会企画書発表
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

### 【履修上の注意事項】

芸術学Ⅰを習得したものが望ましい

### 【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

### 【テキスト】

レジメ、資料を配布する

### 【参考文献】

1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

## 哲学ゼミ

担当教員 武田 一博

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

「哲学ゼミ」は共通科目ですが、講義でなく、少人数で自由にディスカッションしながら、哲学の問題を考えようとする学生のために設けられています。ゼミで考える問題も、テキストを読む場合にはテキストも、受講生から自由に提案してもらいながら、進める予定です。昨年は映画を見て、それを元にディスカッションする授業も行いました。哲学という学問は、突き詰めて言うと「人間の生き方」を問うところに特徴があります。みなさんと一緒に「どう生きたらいいのか」を考えていければ、と思います。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講師と受講生の自己紹介	17	後期のテキストについて
2	成績評価について、テキストについて	18	この間、考えていること：自由討議
3	グループ分け	19	グループ分け
4	哲学とは	20	グループ1の報告
5	グループ1の報告	21	”
6	”	22	ディスカッション
7	ディスカッション	23	グループ2の報告
8	グループ2の報告	24	”
9	”	25	ディスカッション
10	ディスカッション	26	グループ3の報告
11	グループ3の報告	27	”
12	”	28	ディスカッション
13	ディスカッション	29	討論のまとめ
14	まとめ	30	期末レポート
15	期末レポート	31	
16	前期を振り返って		

### 【履修上の注意事項】

#### 【評価方法】

出席と報告、レポートの総合評価で成績を判断します。

#### 【テキスト】

受講生と話し合って決めます。

#### 【参考文献】



## 歴史学ゼミ

担当教員 吉浜 忍

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

講座内容は、沖縄の歴史の基礎・基本を学びながら、フィールドワークを重視することで身近な歴史に触れる機会を多くもつ。さらにこのことを発展させて、地域の歴史調査を実施し、地域の歴史を掘り起こす。最終的にはこれらのことをふまえて自らが興味・関心ある歴史テーマを設定して調査研究することにより、歴史の醍醐味を知ることが目的である。自らがあるいはゼミ生が共同で地域の歴史を掘り起こすことにより、地域の歴史理解と認識を深め、歴史研究の基盤を育成する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期ガイダンス	17	調査研究テーマの設定
2	沖縄近現代史概説①	18	調査研究テーマの発表
3	沖縄近現代史概説②	19	フィールドワーク③
4	沖縄近現代史概説③	20	調査研究
5	フィールドワーク①	21	調査研究
6	沖縄近現代史概説④	22	調査研究
7	資料館見学①	23	資料館見学②
8	地域調査の視点と方法	24	調査研究の発表
9	地域調査	25	調査研究の発表
10	地域調査	26	調査研究の発表
11	地域調査	27	調査研究の発表
12	調査のまとめ	28	フィールドワーク④
13	調査のまとめ	29	フィールドワーク⑤
14	フィールドワーク②	30	後期の反省
15	前期の反省と課題	31	
16	後期ガイダンス		

### 【履修上の注意事項】

- (1)ゼミナール形式の授業なので、受講生の意欲的な取り組みが必要である。
- (2)フィールドワークや資料館見学、地域調査は講義の時間以外に行うことが多い。
- (3)県内で開催される歴史講演会や見学会等への積極的参加が求められる。
- (4)抽選となった場合は、初回ゼミの時間に面談の上、決定する。

### 【評価方法】

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ①出席状況                | 20点 |
| ②取り組みの姿勢と態度・意欲       | 20点 |
| ③調査方法や報告内容           | 30点 |
| ④課題レポート              | 30点 |
| ①+②+③+④=100点満点で評価する。 |     |

### 【テキスト】

テキストとなる文献については適宜紹介する。

### 【参考文献】

参考文献については適宜紹介する。

## 倫理学ゼミ

担当教員 小柳 正弘

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

## 【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して問題を多面的かつ根底的に検討する事をめざすものなので、この講義では、受講者それぞれが関心をもっていることも素材にしながら、さまざまな問題について、講義担当者が通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりする形で「ともに考える」ことをめざす。

## 【授業の展開計画】

毎回、一つもしくは二つの問題について全体で議論する。受講者は最低半期に一回は議論の素材を提起する報告者をつとめる。テーマは前期は『マイクロ・エシックス』でとりあげられているもの、後期は受講者それぞれが関心を持っている問題を基本とする。報告者はレジюмеを作成し、その他の受講者はコメントを準備する。議論の結果については小レポート作成。自身のレジюме、コメント、小レポート、発言記録票（自身の発言を自身で記録したもの）などは、各自B5Eの紙製フラットファイルにとじる（毎時間回収・配布）。

1. 利エンテーション
  2. 哲学的な考察とはどのようなものか(1)
  3. 哲学的な考察とはどのようなものか(2)
  4. 以下、〈 〉内は『マイクロ・エシックス』の項目を一例として列記したもの。
  5. 〈血液型〉、〈占い〉
  6. 〈ガンパレ・ニッポン〉、〈スポーツ〉
  7. 〈国境(境界)〉、〈外人〉
  8. 〈儀式〉、〈大声〉
  9. 〈グジラ・マゴロ〉、〈いじめ〉
  10. 〈女子大生〉、〈女流〉
  11. 〈主夫・主婦〉、〈らしさ・だてにくせに〉
  12. 〈方言と関西弁〉、〈拝啓〉
  13. 〈清潔〉、〈拒食症〉
  14. 〈まちづくり・むらおこし〉、〈みどり〉
  15. まとめ(事前準備)
  16. 全体討論「なぜひとを殺してはいけないのか」
  17. 瀬戸内寂聴に学ぶ(愛とはなにか)
  18. 全体討論「なぜ死んではいけないのか」(1)
  19. 全体討論「なぜ死んではいけないのか」(2)
  20. 波瀬満子に学ぶ(言葉の力)
  21. 山田太一「車輪の一步」をめぐって=「障害」をどのようにうけとめるか(1)
  22. 山田太一「車輪の一步」をめぐって=「障害」をどのようにうけとめるか(2)
  23. 黒澤明「生きる」をめぐって=生きることの意味(1)
  24. 黒澤明「生きる」をめぐって=生きることの意味(2)
  25. 「ロールパンナのふたつのこころ」をめぐって=善と悪
  26. 夏目漱石「こころ」をめぐって=友情とは
  27. 受講者の問題意識を素材に報告・討論
  28. 受講者の問題意識を素材に報告・討論
  29. 受講者の問題意識を素材に報告・討論
  30. まとめ
- ・B5Eの紙製フラットファイルを学内の売店で購入して必ず準備する（成績評価の基本となるので用意しなければ受講できない）。
- ・テキストを必ず用意すること（テキストなしでは議論に参加できない）。

## 【履修上の注意事項】

「授業のねらい」や「授業の展開計画」に記したように、授業への実質的で積極的な参加を強くもとめる。自分で考え、読んだり書いたりすることを通して、自分の言いたいことをきちんと話すことができ、他人の言いたいことをきちんと聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。教室は「ともに考える」場なので、私語は厳禁（挙手して公に発言せよ）、質問は原則授業中に行うこと（問題を共有してともに考えることに貢献せよ）。

## 【評価方法】

授業中に行うまとめのレポート（持ち込み不可）2回・各10点＝計20点  
 報告・レジюмеの評価、2回・各15点＝計30点  
 コメントおよび発言記録票の評価＝30点  
 小レポートの評価＝20点

## 【テキスト】

川本隆史ほか編『マイクロ・エシックス—小銭で払う倫理学』昭和堂

## 【参考文献】

授業中に適宜紹介する。